

林野庁 北海道森林管理局  
常呂川森林ふれあい推進センター

令和2年度 年 報

# オホーツクの「森」から



発行に当たり

オホーツク地方は、世界自然遺産「知床」や網走国定公園等、自然環境に恵まれ貴重な動植物を育む地域です。

常呂川森林ふれあい推進センターは、オホーツク最大の河川である常呂川流域を中心に、自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育等に取り組む企業・団体・NPO等の活動の支援、技術指導等を行っています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響を受けて、イベント等についても多くが中止を余儀なくされましたが、夏の終わり頃から感染予防対策を講じた上で実施出来る状況になりました。

この度、令和2年度の主な活動内容をまとめましたのでご覧下さい。

---

## 目 次

森林環境教育の取組み	..... 1 頁
地域との連携・普及啓発等の取組み	..... 3
自然再生・生物多様性保全の取組み	..... 8
その他の取組み	..... 10
活動区域及び所在地	..... 11

---

# 森林環境教育の取組み



常呂小学校

## ○自然観察会

(ワッカネイチャースクール)

9月4日(金)、常呂小学校3年生9名を対象とした、栄浦のワッカ原生花園をフィールドとした自然観察会(ワッカネイチャースクール)をサポートしました。

今回は、新型コロナウイルスの感染防止の観点から実施が危ぶまれましたが、例年から2ヶ月遅れての実施となりました。

これは、常呂小学校の自然を楽しむ・親しむことを目的に自然観察会が開かれているものです。



自然観察会ということで、自然を感じること・観察すること、楽しむことをメインとし、ネイチャーゲーム(「フィールドビンゴ」「カメラゲーム」「サウンドマップ」)を組み込みながら2班に分かれておよそ2時間の散策です。

「フィールドビンゴ」では、懸命に対象となる物を見つけ、「ビンゴが出来た。」「3ライン並んだ」などうれしそうでした。

「サウンドマップ」では、「船のポーという音が聞こえ、いろんな風の音が聞こえた」「鳥の音が聞こえた」などの声がありました。

また「カメラゲーム」では、ノコギリソウ、アキノキリンソウ、ムラサキベンケイソウなどの花をメインにした絵が完成していました。

途中、双眼鏡・虫眼鏡を子ども達に渡したところ、水辺での貝類やトンボ、鳥類などを興味深く観察する姿が見られました。

担任の先生からは、「実施時期が遅れ、花や鳥など、例年よりも見れなかったと思いますが、実施出来たこと事体うれしかったです。」

「ネイチャーゲームなど子ども達が楽



しめる内容が盛りだくさんで大変良い思い出となりました。植物にも関心を持って取り組めて良かったです。」などのコメントをいただきました。



### ＝ネイチャーゲーム＝

#### フィールドビンゴ

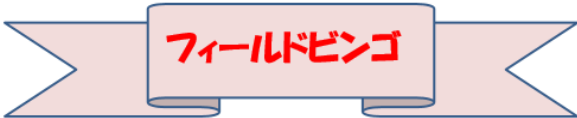
実際のフィールドにあるもの（黄色い花、花の種、貝がらなど）を記入したカードを用意し、見つけたら○をつけ、ビンゴをめざす。

#### カメラゲーム

二人ペアになり、カメラマンは目隠しをしたカメラ役を被写体に誘導、カメラ役は見た光景を絵にする。

#### サウンドマップ


自分を中心に、聞こえた音を感じたままに色や線、記号で紙に描く。



## フィールドビンゴ

青いもの	キノコ	ピンクの花	丸いもの
オレンジ色の葉っぱ	白い花	船	アリ
ギザギザの葉	貝がら	黄色い花	下のマルより大きな石
タネ	鳥	トゲのあるもの	あわ

この「マル」より大きな石を！



見つけたものに○  
ぜんぶ見つけたら  
**10ビンゴ!**

#### ※新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となった行事

- 端野小学校森林教室（例年 6 月実施）
- こども探検隊（例年 7 月下旬実施）
- 常呂小学校木工クラフト教室（昨年 11 月実施）
- キッズチャレンジクラブ（生田原教育センター主催 例年 7 月実施）

## 地域との連携・普及啓発等の取組み

### 【地域と連携した取組み】

 **ネイパル北見**  
(北海道立青少年体験活動支援施設)

#### ○ネイパルこどもエコクラブ

ネイパル北見主催の「ネイパルこどもエコクラブ」について支援要請があり、8月23日(日)、当センターから講師等として3名参加しました。

これは、地域の環境資源を活用した各種体験等を通して、ふるさとに対する愛着心や環境保全に対する理解を深めるため行なわれたものです。

当センターとしては、森林の持つ様々な働きや役割を実際の森林で学んでもらうことに取り組みました。



「オホーツクの森」の「古の森」遊歩道において、小学校低学年(2~3年生)10名と高学年(4~6年生)12名の2班に分かれ、森林の成り立ちや役割等を説明しました。

具体的には、森林の魅力を感じてもらえるよう

- ・水源(川のはじまり)
- ・森林の移り変わりを支える倒木更新
- ・樹齢200年以上のエゾマツ・アカエ

ゾマツ・ハルニレ等の巨樹・巨木  
・動物の棲みかとなる樹洞(木の洞穴)  
・キツツキの食痕、ヒグマの爪あと  
などのポイントをおさえ、約1時間半遊歩道を歩きながら学びました。

子ども達からは「いろんな話が聞けて良かった。また、来てみたい」「大きい木がたくさんあった」「たくさんの動物や植物のすみかになっているんですね」など森林の持つ意味を理解してくれているようでした。

貴重な体験になったのではないかと思います。





## 網走市農政課

### ○美岬のヤチダモ&木工クラフト体験会

網走市の要請で 10 月 31 日に実施された「美岬のヤチダモ&木工クラフト体験会」へ、当センターから案内役として 2 名参加しました。

これは、木や森の存在を身近に感じ、自然とともに生きることにについて学ぶ機会を増やすため、木育の一環として行なわれたものです。

コロナ禍のため参加する市民も子供を含めて 7 名に絞られ、森林散策と木の実等を使った木工クラフトを楽しみました。

まずは北海道の巨樹リストに載る「美岬のヤチダモ」を中心にその周囲の天然林内を 2 班に分かれて散策しました。



美岬のヤチダモ



時期的に葉が残るギリギリのタイミングでしたが、それぞれ木の特徴を交えて話をすると、キタコブシの匂いやヤチダモの雌雄、ツル類の多い箇所で蔓の巻き方や色での見分け方等、説明に対する質問も都度出されて賑やかな散策となりました。（もちろん 3 密は避けています）

続いて場所を海洋センターに移してクラフト作成です。

最初はグルーガンの扱いにも手間取っていましたが、慣れてくると大作に挑む人も出てきました。

あっという間の 2 時間半でしたが「地元こんなに木の種類があるのは知らなかった」「日をあらためて友達と今日のコースを歩きたい」「グルーガンどこで買えますか？」等々、地元再発見の 1 日となったようです。



### ※新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となった行事

- ネパール北見「遊びの祭典」（例年GW中実施）
- 「オホーツクの森」子ども探検隊（例年7月末、8月上旬実施）
- 夏休みこども体験デー（例年8月実施）

## 【ボランティア団体の活動支援】



### 森林ボランティア「オホーツクの会」

#### ○秋の森林散策ウイーク

10月5～8日、新型コロナ感染予防として、バスを利用せず、短時間、少人数での森林散策ということで初の取り組みとして「森林ウォークウイーク」が行われました。

センターでは、8日:オホーツクの森「古の森」で講師を担当すると共に各公園での事前の下見でサポートさせていただきました。

初日(5日)の緑ヶ丘森林公園(10名)は、朝からの雨で実施が危ぶまれましたが、スタート時には小雨、その後徐々に天候回復、6日:南丘森林公園(9名)、7日:北見ヶ丘(10名)、8日:オホーツクの森「古の森」(12名)と好天に恵まれ、4日間、延べ41名が秋の森林散策を楽しみました。(10日・11日は希望者少数のため中止)

「古の森」での参加者からの感想として、「こんなに近くに豊かな自然の営みを感じる森があるんですね」「違う季節にまた来たいです、参加して良かったです」などがありました。



#### ○「4コマで感じる写真展」

一般市民に森林、自然の素晴らしさを知ってもらおうと初めて企画・実施した「私が見つけた自然 4コマで感じる写真展」(11月18日～24日、NHKぎやらりー)を支援しました。

北見柏陽高校写真部13人を含め34人の一般応募もあり、想定を上回る65作品(47人)の出展がありました。

企画した会員の方からは、「森林に入る機会が少なくなっている市民の皆さんに、森林とのふれあいを呼びかけ、自然にふれることで感じる不思議さや心地よさ、森林への理解を深めていく媒介者としての役割の大切さをますます感じました」との感想がありました。

来場者からは、「ずらりと見応えあり、楽しめました。気軽に、身近で見つけた

それぞれの物語を感じることができました。ぜひ、またいつか…2回目期待しています。」「たくさんの眼を通して、美しくやさしく、時には厳しい自然を楽しませて頂きました。ありがとうございます。また次回も楽しみです。」「どの写真も心がこもっているため息出ました。山に、自然に、触れました、久々に・・・ありがとうございます。」などの声がありました。



## ○冬の自然観察会

2月27日（土）、冬の自然観察会が20名の参加により、サロマ湖畔遊歩道（佐呂間町）で行われ、当センターから2名がサポートしました。

バス乗車は定員の半数以下、散策時以外はマスク着用、ガイドは拡声器使用、昼食はなし（散策途中でおやつタイム）など、新型コロナ感染対策をしながらの観察会です。

4班にわかれ、新雪の林内をスノーシューで進むと動物（エゾユキウサギ、キタキツネ、エゾリス、エゾシカ等）の足跡や幹周り3mを超えるハリギリやハルニレ、クマゲラの食痕等に出会うことができました。

また、原型を保ったままのスズメバチの巣、巨大なヤドリギ、緑の葉をつけたツル植物（ツルマサキ）、湖岸に打ち寄せられた大きな氷塊など、寒さに震えながらも自然の不思議・森林の魅力を感じる観察会でした。



## ○その他の活動支援

- 7月14日 第1回自主活動（オホーツクの森）
- 9月8日 第2回自主活動（オホーツクの森）
- 10月13日 第3回自主活動（オホーツクの森）
- 10月31日 炭作り隊・色いろ食べ隊  
（オホーツクの森「森の家」）
- 2月18日 自然に学び隊（サロマ湖畔）  
などの活動を支援しました。



## オホーツク森の案内友の会

- 7月20日（月） 総会（書面開催）
- ★新型コロナ感染予防の観点から令和2年度の活動については中止しました



## オホーツクみどりネットワーク

- 6月24日（水） 全体会議（書面開催）





○木育・森林環境教育意見交換会

オホーツク地域における木育と森林環境教育の連携した取組みに向けた意見交換を平成27年度から行っています。

そこでは、お互いのフィールドの紹介や活動内容等を情報提供すると共に課題の共有を図っています。

今年度は、10月29日(木)に東部森林室の担当で行われ、午後からのフィールド紹介では津別町道有林のミズナラ巨木(最上のミズナラ、双葉のミズナラ)を案内していただきました。



双葉のミズナラ  
幹廻り 640cm、樹齢約 1,200年

【広報活動】

当センターでは、イベントの案内や「オホーツクの森」の自然情報等をホームページに掲載してきました。

一層の情報提供の充実を図るため、広報誌「森(モリ)・盛(モリ)・オホーツク」を発行しています。

今年度は、新型コロナウイルスの感染防止の観点から主催の行事がほとんど出来なかったことから発行しておりませんが、昨年度版までの当センターの活動を掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。よろしくお祈いします。

「森(モリ)・盛(モリ)・オホーツク」

[http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa\\_fc/morimori.html](http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/morimori.html)



※新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となった行事

- 「緑の募金」街頭募金キャンペーン(例年4月中実施)
- 森林の魅(味)力を感じよう!(山菜教室)(例年5月末実施)
- 「山の日」制定記念 森林散策会(藻琴山登山)(例年8月末実施)
- 森林へおいでよ! パネル展(例年9月末~10月上旬)



# 自然再生・生物多様性保全の取組み

## 【自然再生モデル事業企画運営協議会】

今年度の自然再生モデル事業企画運営協議会（会長：中島紀男）については、三役で協議し、新型コロナ感染予防の観点から中止（10月期）、書面開催（3月）としてきました。

## 【野生生物自動撮影調査】

当センターは、平成20年から「北海道野生生物観測ネットワーク」に参加し、国立研究開発法人森林総合研究所北海道支所から技術支援を受けて、「自動撮影装置による中大型ほ乳類の調査」を実施しています。



この調査は、撮影頻度という量的なデータに基づいて、中大型ほ乳類の生息動向を探る試みで、道路沿いに設置した赤外線感知装置付きの自動撮影カメラの前を通ると24時間、自動的に撮影されるものです。

今年度は、7月6日～21日（16日間）、8月4日～19日（16日間）、9月3日～17日（15日間）及び10月7日～20日（14日間）の4回実施し、撮影された野生生物は、エゾシカ79回、キタキツネ163回、エゾタヌキ154回、エゾリス13回、ヒグマ3回、クロテン3回となっており、キタキツネとエゾタヌキの撮影頻度が高くなっています。

また、ネコ5回、コウモリ類7回、アライグマ2回、キジバト2回、ヤマシギ2回、エゾライチョウ1回撮影されており、合わせて435回撮影されました。



また、昨年度で「北海道野生生物観測ネットワーク」の取り組みが終了しましたが、アライグマ等の生態系に影響を及ぼす外来生物の監視や野生生物の生息動向を確認するために自動撮影調査を継続していきたいと考えています。





※新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となった行事

- オホーツクの森林づくり（例年6月中実施）
- 森林づくり塾（例年6月頃実施）

※天候不良（雨天）により中止となった行事

- 森林づくり塾（例年10月頃実施）

## その他の取組み

### 【ワークショップ】

今年度、新たな取り組みとして、道局内の若手職員のスキルアップに向けたワークショップを10月15～16日「オホーツクの森」及び「オホーツク木のプラザ」で、8名の参加により実施しました。

始めに自動撮影カメラを使用した野生生物生態調査の取り組みを現地で説明。

次に、「オホーツクの森」に当センターで設置した樹名板コースを巡りながら、オホーツク地域に生育する樹種の観察・識別の樹木勉強会を実施しました。



翌日には、樹名あてクイズを行い、自分の実力を確認すると共にそれぞれのスキルアップを図りました。



また、「オホーツク木のプラザ」で、森林ボランティア代表の活動報告を聴講し、その上で「森林に人を呼ぶには」をテーマに2班でのディスカッション及び発表を行いました。

参加者からは、「森林に人を呼ぶ方法で出てきたアイデアから、実践出来るものは取組みたい」「森林ボランティア等による森づくりに関して、生の声で取組み報告を聴けて大変参考になったし、

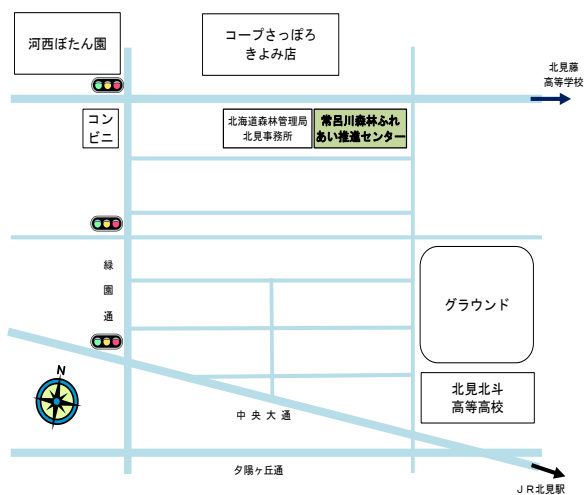
興味深かった」「受けてて楽しい講義、樹木の見方（葉、冬芽、花、樹皮、枝、つる）を改める良い機会になった」「森林教室をはじめ外部発信するコツは非常に勉強になった」「今後もワークショップが続けられれば良いと思った。楽しかったし、是非また参加したい」などの感想があり概ね好評のようでした。

来年度も実施することになれば今年度の反省に立って、より良いものにしていこうと思っています。

なお、樹名板コースについては、近隣署のOJT や森林ボランティア活動のフィールド等として活用していきたいと考えています。



## 活動区域及び所在地



### JR 北見駅から

北海道北見バス「緑が丘線」に乗車し、「消防署前」で下車。徒歩約3分  
または、北海道北見バス「美山線」に乗車し、「清見中央」で下車。徒歩約5分



### お車でお越しの方

#### ※網走方面から

国道39号をJR北見駅前で右折し直進。NHK北見放送局手前を右折し、北見北斗高校右横を進み、コープさっぽろ「きよみ店」の向かい

#### ※旭川方面から

国道39号を栄町3丁目交差点で緑園通へ左折し直進。花月町6丁目交差点を右折し、コープさっぽろ「きよみ店」の向かい



林野庁 北海道森林管理局

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

くらしを育む・国有林

## 常呂川森林ふれあい推進センター

〒090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11の3

【TEL】0157-23-2960 【FAX】0157-26-2144

[http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/index.html)

<メールアドレス> h\_tokoro\_f@maff.go.jp



表紙:エゾタツナミソウ(「オホーツクの森」)